

# 玉井小だより

平成27年12月14日  
大玉村立玉井小学校  
TEL(48)3302

発行者 校長 佐藤一男

## 優しい味のスイートポテト

11月30日(月)、2年生が学校の畑で育てたサツマイモをつかってスイートポテトを作りました。

このサツマイモは、1、2年生みんなで石を拾い、何度も耕してもらって、ようやくできた畑で獲れたものです。

子供たちが届けてくれたので、私もいただきました。優しい甘さのとてもおいしいスイートポテトでした。



【収穫までに4ヶ月かかりました】

何とも言えない味わいがありました。子供たちも本当にうれしそうでした。

やはり、自分たちの手で世話をし、時間をかけて育てたものをいただくことはとても大事な経験なのだと思います。子供たちは、農作物を作るのには手間暇がかかること、そしてなかなか思いどおりにはいかないことなど、いろいろなことを学んだことでしょう。

自然界で、栄養分を自らつくることができるのは植物だけです。植物は、光合成の働きによって二酸化炭素と水と太陽エネルギーから有機化合物をつくります。いくら大きな動物でも、自分で栄養分をつくることはできません。人間や動物はそうした植物(とそれを食べた動物)を食べることによって生命を維持しています。



わたしたちは、このような植物の恵みをいただくことを当たり前のこととして、特別に意識することが少なくなっているようにも思います。しかし、植物のこの働きは大変なことです。そして農業は人間にとって最も大切な営みの一つです。

来年も子供たちに畑で栽培活動をさせてやりたいと考えています。どうぞみなさまのご協力をお願いいたします。

## お願い

校舎周辺は、活動等で児童が頻繁に移動します。車の進入は、バックネット側の駐車スペースまでとなっています。校舎前のロータリー、児童昇降口への進入は、ご遠慮願います。

子供たちの安全のためです。どうかご理解とご協力をお願いいたします。



## 4年「ふるさと、大玉村のよさを見つけよう」の学習から

～子供たちが自分たちの疑問や課題を解決していく学習～

12月7日と11日、4年生の総合的な学習の時間では、「大玉村で長く作り続けられているものについて知り、詳しく調べる」という学習をしていました。

まず、子供たちは、國分菓子店や時崎豆腐店の豆腐作りや油揚げ作りの写真を見たり、先生から作業の様子などについて、話を聞いたりしました。次に、どちらの店も昔からあって、4代も続いていることや、時崎豆腐店の店名には「豆腐」でなく「豆富」という漢字を使っていることなどを知ります。それから、「ここの油揚げでないとダメだという人がいるから、がんばって続けているんです。」というものづくりに携わる人の熱い思いも学びました。

さらに、これから自分たちが調べていきたいことについて話し合いました。

「どうして『ぶっきりあめ』は、冬しか作らないのか？」

「店の名前に、『豆腐』でなく『豆富』という漢字を使うのは、なぜか？」

など、様々な疑問が出されました。授業の最後にはこんな感想が出ました。



【学習課題をとらえる】



【質問を整理する】



【質問の手紙を書く】

- 今日の勉強で、もっと詳しく調べたくなりました。家が近くなので今日、行ってみたいと思いました。
- 学校の創立記念日にいただく紅白まんじゅうも國分菓子店で作っているよ。
- お祭りで投げる紅白餅も國分菓子店のお餅だよ。

子供たちは、地域のお祭りや学校の創立記念日と、村のお菓子屋さんが、つながっていることに気付いたのです。今まで、なんとなく知っていたことが、新たな興味・関心の対象となり、それらを一つ一つていねいにつないでいくことで、子供たちの思考は深まり、認識は広がります。

「1回目の授業の後、実際に國分菓子店に、ぶっきりあめを買いに行ったという子が何人もいましたよ。」と担任の先生が嬉しそうに話してくれました。子供たちの興味・関心は確実に高まっているようです。

次の時間、子供たちは、これらの疑問を整理し、国語の学習を生かして、それぞれのお店の方に質問の手紙を書いていたました。これからの学習がとても楽しみです。